

未来につながる森林事業を推進しています

飯館村森林組合



飯館村森林組合は、昭和37年に設立され、60年以上にわたり、村内の森林事業に幅広く取り組んでいます。現在の組合員数は約900人。組合事務所には、作業員を含め、29人が勤務しています。

東日本大震災の被災後は、除染に伴うイグネの伐採や搬出など、段階に応じて復興事業に力を尽くしました。令和3年からは、木質バイオマス発電所「飯館みらい発電所」への木材の供給を担い、年に約1万トンの木材を納入しています。また、広葉樹林を再生させるための伐採事業も受託していて、所有者との調整から設計・施工までを行っています。



事務所は白石地区の県道沿いにあります。



遊んで学べる「森林経営ゲーム」。
(写真は令和6年、村内のイベントにて)

いずれも村の森林の再整備につながる大切な事業です。全国的に林業に携わる人が減少する中、人材を育てながら事業を進めてきました。林業の人材育成プログラム「緑の雇用」制度を活用すれば、仕事に必要な10、20の資格を無料で取得することができ、年齢・経験年数等に要件あり。『ペテランが活躍している今こそ、若い人への継承が大切』と佐藤長平組合長(宮内)。「雨で作業が休止になった時などに、道具の使い方や大径木(幹周りが太い木)の切り方を、ベテランが若手に教え

ている様子も見られます」。また、職員の長正景子さん(草野)が考案した「森林経営ゲーム」が業界の話題を集めています。楽しみながら森林経営について学べる木製のボードゲームで、県外からも貸し出しの依頼が届いています。「復興事業の達成後は、再造林にも取り組みたい。里山の整備も本来やるべき大切な事業であり、将来を見据え、課題を乗り越え活動していきたい」と佐藤組合長。週休2日制を定着させるなど、働きやすい職場づくりにも努めています。

飯館村森林組合
飯館村白石字町310
☎0244-42-0055

※求人については直接同組合にお問い合わせください。

取材日に事務所で仕事をしていた総務部・事業部の皆さんと佐藤組合長。右から2人目がゲーム考案者の長正さん。同3人目の成松芽美さんは、この10月にチェーンソーの大会に出場しました。



ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

おすすめ図書を紹介します

大人も知らないもののまわりの謎大全



ネルノダイスキ 著
ダイヤモンド社

身の周りに潜んでいる謎に注目。私達の周りには、こんなにもさまざまな謎が潜んでいたのか？宇宙人達が身近に潜む謎を解明していきます！

交流センターの図書貸出について

1か月を目安に返却をお願いしています。長く借りられている方は、返却をお願いいたします。

リクエスト図書について

こんな本が読みたい、こういうジャンルのものを置いてほしいなど、ぜひお声がけください。または、交流センター「ふれ愛館」にあるリクエスト用紙にご記入ください。※課内で協議の上、購入いたします。

歴史の散歩道

山津見神社の例大祭

新たな形の復活へ

標高705mの虎捕山に鎮座し、山の神として広く信仰を集める山津見神社。およそ一千年の昔、凶賊・橘墨虎(たちばなのすみとら)の討伐に難儀をしていた源頼義が、夢の中で「白狼の足跡を追うべし」という山の神のお告げを受けて討伐を果たし、山頂に祠を建てたことが縁起として伝わります。伝承は、この山が「虎捕山」と呼ばれる所以でもあります。

山津見神社では、毎年旧暦の10月17日に、山の神を敬い山の恵みに感謝する「山御講」が行われています。震災前は、これに合わせて旧暦の10月15日から17日に例大祭(秋祭)が行われ、参道や境内は多くの出店で賑わいました。最盛期には3日間で3万人の人数が

あったそうです。地元の人も茶屋を出し、手製の餅やうどんを出して参拝客をもてなしました。東日本大震災による全村避難に伴い、例大祭は規模を縮小して継続されました。そして山津見神社は避難の中、平成25年に火災で拝殿を焼失。多くの人の協力を得て再建を果たしています。

今年、例大祭の再興を願う地元の声にこたえて、有志が実行委員会を発足。12月4日から3日間に、茶屋や屋台が並ぶ祭りを復活させようと活動しています。関連の芸術プロジェクトも当日に向けて進行している他、佐須の虎捕太鼓が福島大学の学生の協力を得て奉納される予定です。



昭和期の資料。茅などを使ってつくられた茶屋が参拝客を出迎えました。(飯館村史民俗編より転載)



再建された拝殿。狛犬ではなく山の神の眷属(けんぞく)である白狼が神前を守護します。